

医療と福祉の連携

—障害者への診療対応および診療支援に関するアンケート報告 砧エリアでの取り組みから—

砧エリア自立支援協議会

野村 一恵、紀伊 良彦、田中 正則、浅見 由希、中根 順子

(障害児者 医療と福祉)

1. 目的

世田谷区自立支援協議会は、地域で誰もがその人らしい暮らしを継続することができるように活動しています。いくつかある目的の中に「地域の課題や問題を解決していくこと」「そのためのネットワークづくりの構築」があり、同協議会は世田谷、北沢、玉川、烏山、砧の5つのエリアに分かれています。

私たち砧エリア自立支援協議会では、「住み慣れた地域で適切な医療が受けられる社会の実現」を目標のひとつとして活動しています。平成29年度より「医療と福祉の連携」を活動テーマにし、医療機関や障害当事者・家族が何に困っているのか、そして福祉従事者が、その困りごとに対して何ができるのかを探り、実践していくことを目的として、アンケートを3回にわたり実施しました。

2. 実践内容

(1)平成29年度 第1回アンケート (配布 49部 回答 25部)

■テーマ：医療と事業所の連携

■対象：砧エリア内 障害者関係の事業所

■結果：成人になっても小児専門病院に通院している利用者がいる

近隣のクリニックを探したが通院が難しかった利用者がいる など

■医師へのインタビュー（国立成育医療研究センター医師 地域のクリニック医師）

・小児専門病院では成人期の疾患を診ることができない

→※適切な医療を受けるために成人期移行が必要である

・成人期移行について様々な職種の人が携わる枠組みが必要、医師任せにはいけない

→※障害者が受診をするときに本人も医師も安心できる環境を設定することが必要

(*成人期移行とは…小児専門病院を受診中の障害者が成人前にスムーズに適切な診療科へ移行すること)

(2)平成30年度 第2回アンケート (配布 752部 回答 422部)

■テーマ：医療機関受診時の困りごと・医療の成人期移行・福祉と医療の連携

■対象：砧エリア内 障害当事者やご家族

■結果：障害特性を踏まえた医療を提供できる医療機関が見つからず困っている

そもそも医療と福祉の連携が十分とれていないため、イメージが持てない など

→※本人に合った医療を受けるためには、医療と福祉の連携を実現していくことが必要

(3)令和元年度 第3回アンケート (配布 125部 回答 65部)

■テーマ：クリニックが障害者診療での難しさ・困りごと・工夫していること

■対象：砧エリア内 クリニックの医師

